

平成 26 年 9 月 25 日
205 会議室

平成 26 年第 18 回
立川市教育委員会定例会

立川市教育委員会

平成26年第18回立川市教育委員会定例会

- 1 日 時 平成26年9月25日(木)
開会 午後 1時30分
閉会 午後 2時48分
休憩① 午後 2時22分～午後 2時23分

- 2 場 所 205会議室

- 3 出席委員 福 田 一 平 田 中 健 一
平 山 いづみ 伊 藤 憲 春
小 町 邦 彦
署名委員 伊 藤 憲 春

- 4 説明のため出席した者の職氏名
教育長 小町 邦彦 教育部長 新土 克也
教育総務課長 栗原 寛 学務課長 大石 明生
指導課長 泉澤 太 特別支援教育課長 矢ノ口美穂
学校給食課長 亀井寿美子 図書館長 小宮山克仁

- 5 会議に出席した事務局の職員
教育総務課庶務係 高木 健一 安藤 悦宏

案 件

1 請願

(1) 請願書について

2 報告

(1) 東京ベーシックドリルについて

(2) 図書館の臨時休館について

(3) 第2次学校教育振興基本計画検討委員会の設置等について

3 その他

平成26年第18回立川市教育委員会定例会議事日程

平成26年9月25日
205会議室

1 請願

(1) 請願書について

2 報告

(1) 東京ベーシックドリルについて

(2) 図書館の臨時休館について

(3) 第2次学校教育振興基本計画検討委員会の設置等について

3 その他

◎開会の辞

○福田委員長 ただいまから、平成26年第18回立川市教育委員会定例会を開会いたします。
はじめに署名委員の指名を行います。署名委員に伊藤委員、お願いいたします。

○伊藤委員 はい。

○福田委員長 次に、議事内容の確認を行います。本日は、請願1件、報告3件でございます。
議案及び協議はございません。その他は議事進行過程で確認いたします。

次に、議事進行についてお諮りします。1請願(1)請願書について、でございます。請願者は市内中学校に在籍する生徒の保護者であり、請願書には学校名及び個人名が記載されております。個人情報を含む請願でございますので非公開にしたいと思いますが、ご異議ございませんか。

〔「ありません」との声あり〕

○福田委員長 異議なしと認めます。ご承認いただきましたので、1請願(1)請願書については非公開として取り扱います。

なお、議事進行の確認ですが、2報告(1)東京ベーシックドリルについて、から議事に入り、報告(2)、報告(3)及び3その他と進めてまいります。3その他を終えた時点で暫時休憩とし、休憩後、1請願に戻り、(1)請願書について、を非公開として審議いたします。

次に、出席者の確認を行います。新土教育部長、お願いします。

○新土教育部長 本日の立川市教育委員会定例会の出席管理職でございますが、教育部長、教育総務課長、学務課長、指導課長、特別支援教育課長、学校給食課長、図書館長でございます。

◎報 告

(1)東京ベーシックドリルについて

○福田委員長 それでは、報告に入ります。

報告(1)東京ベーシックドリルについて、の報告でございます。

お手元の資料、東京ベーシック・ドリルを活用した調査(小学校算数科)結果について(平成26年1学期実施)〈分析編〉をご参照願います。

泉澤指導課長、ご説明等お願いいたします。

○泉澤指導課長 それでは、東京ベーシックドリルに係わる報告をさせていただきます。

まず資料の6ページをお開きください。こちらに東京ベーシック・ドリルの活用についてということで東京都からいただいたものを参考として添付させていただきました。

このベーシック・ドリルにつきましては、小学校4年生までに学習する内容を確実に定着させることを目的として、東京都教育委員会が国語・算数・理科・社会について、それぞれの教科の4年生までの学習内容の基礎的なことを定着させるためのドリル形式のプリントを

作成したものでございます。具体的な各教科の内容につきましては、7ページから11ページまでにその活用例ということも含めてお示ししてございますのでご覧ください。

今回、立川市教育委員会といたしましては、子どもたちの基礎的な学力の定着の度合いを把握するために、東京ベーシック・ドリルの算数編の中に診断シートということで、各学年で学習する内容の例題レベルの問題をテスト形式でまとめたものがございます。こちらを7月までに各学校で、2年生の場合は1年生の学習が終了していますので1年生の問題を、3年生は2年生、4年生は3年生、5年生は4年生、さらに6年生につきましても4年生の学習は終了していますので、4年生の問題をとということで、2年生から6年生までの全ての児童に対してこちらの診断シートを実施し、採点后その結果を教育委員会に報告をいただいたものでございます。私どもで市全体の傾向や状況が分かるように分析したものを今回こちらの資料の中でお示しいたしました。

なお、この診断シートの採点方法ですけれども、大きな問題の中に例えば問1、問2、問3という小問がある場合に、このいずれか1つでも間違えた場合は、その大きな問題全体を誤答したというような採点方法をとっております。その点を踏まえて資料はご覧いただければと思いますので、よろしくお願ひ申し上げます。なお、各学年の問題につきましては、ページはふってございませんが資料の12ページ以降に、今回子どもたちが解いた問題及び模範解答が載ったものをお示ししてございます。

こうした状況で、ドリルを立川市独自で載せておりますので、他市との比較ということではできませんけれども、本市として1ページ目から5ページ目までに各学年別に結果のポイントになるところをそのような形でお示しさせていただきました。全体の正答率、これは立川市内当該学年の全員の結果を集約したものでございます。

そして算数には4つの領域がございます。「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」という4領域がございますので、それぞれの領域別に市全体として正答率がどうであったか、また、正答数の分布状況ということで特に特徴的なものを抜き出してお示したところがあります。また、各ページの右側にはそれぞれの学年で正答率の低かった問題を抜き出し、お示しする形でまとめたところがございます。

こうした中で立川市の子どもたちの学習状況、定着度ということで、各学校で改めて課題を把握したところがございますので、その改善に向けて9月の校長会で各学校別の結果をお示しするとともに、中学校につきましては中学校区の小学校の結果をお示しして、小中が連携しながら学力を高めていくための基礎資料としていただくようにお出ししたところがございます。また、設問別の課題も見えてきておりますので、それぞれの学校の校内研究の中で、こうした領域や学習内容について指導状況はどうであったのか、また、どのように改善していくのかということをお示ししていただくということをお願いしたところがございます。

長くなりましたが、説明は以上でございます。

○福田委員長 ご説明ありがとうございます。東京ベーシックドリルについての報告を終了します。国語・社会・算数・理科の4教科について、特に4年生までの基本的な内容で構成

されている東京ベーシック・ドリルを活用した調査でございます。特に1学期に実施した算数科の調査結果のご報告でございました。このたびの調査結果から見えてきた本市の児童の傾向、課題、またその課題改善の研究等ご報告をいただきました。

これより質疑に移ります。ご報告内容を踏まえ、ご質疑をお願いいたします。

はい、田中委員。

○**田中委員** ただいま泉澤指導課長から報告がありました点をお聞きいたしまして、改めて当市の学力向上、また、先ほどおっしゃった小中連携、それに特化して学力を向上しようとしていることが分かります。先ほどのお言葉をお借りしますと、基礎的な学力の定着を図るために東京ベーシック・ドリルを実施したという点について、立川市としては東京都23区、多摩地区26市に先がけてやられたことについて改めて心から敬意を表したいと思います。

その上で私からお伺いしたい点があります。まず、東京ベーシック・ドリル診断シートAの結果で、算数4領域を通して、もちろん前年度に学習したものですけれども、それについての平均正答率が60%を超えたのが2年生、4年生、6年生、ほかの学年については60%を切っています。この背景は一体何かということが1点です。

2点目ですけれども、このベーシック・ドリルを活用して、当市としては何が大きな課題なのかを3点、お示しいただきたいことです。

最後に、中学校との連携ということを考えておられるので、この成果を含めての課題です。中学校に何をどのようにお伝えしながら小中連携を図ろうとされているのか、その辺りをお伺いしたいと思います。よろしくをお願いいたします。

○**福田委員長** 3点ございました。泉澤指導課長、お願いいたします。

○**泉澤指導課長** まず1点目の60%を下回っているということでございますが、特に現在3年生、問題としては2年生の問題を解いた学年になります。1つに、子どもたちがこうしたテストの様式に慣れていないということが理由として挙げられると思います。例えば小学校の低学年の段階では筆算の計算はマス目を用意してその中で書かせるというような指導をしておりますけれども、この問題用紙の中にそうした欄はございませんので、そうしたところで子どもたちが戸惑いを感じたという声が挙がっております。また、2年生で学習する内容が、算数は系統的な学習ですけれども、その始まりの学習内容が様々なことの始まりという位置付けがなされておまして、子どもたちにとってなかなか消化しきれていない状況もうかがえるのではないかと捉えているところでございます。

5年生につきましては、若干60%を下回ったということで、明らかな原因は現時点ではまだ把握できておりませんので、こちらについては今、各学校で結果を踏まえて状況を分析してもらっておりますので、そうした中で明らかにしながら対応策を考えていきたいと考えております。

全体的に言えることは、教科書の例題レベルの問題になりますので、私どもとしては6割というラインよりもさらに高い正答率でなければならないと思っております。ただ、先ほど説明の中でも申し上げたように、大問の中で1ヵ所でも間違えたら、ほかに10問あっても全

部×という採点の方法ですので、そうしたところでも若干正答率が低くなっている理由として考えられますが、そこで原因追及をやめるのではなく、あくまでも子どもたちがしっかりと例題を解けるようにしていくということが私どもの使命ですので、今後、このベーシック・ドリルは診断シートと繰り返し練習するシートになりますので、そうしたものを各学校に活用させながら定着を図っていきたいと考えております。

それから2点目、市の課題ということで3点です。私どもが重視しています基礎的・基本的な内容をしっかりと定着させなければならないということがまず第一に挙げられると考えております。その前提のもとで思考力や判断力、表現力といった活用する力を身に付けさせていきたいと考えていますので、これまで私どもが推進しております学習機会を拡充していく補習学習、こちらに成果があるというのは実は今回のベーシック・ドリルの中でも結果として見えてきているところがございますので、こうした取組を改めて小学校でさらに推進していきながら、まず基礎を定着させていくということが第1の課題と思っています。

さらに、先ほど申し上げました思考力、判断力等の力というのも基礎学力を基盤としながら身に付けなければいけないものですが、そうした力を身に付けることでまた学び方も変わってまいりますので、そうすると基礎と活用する力が相互作用をしながら子どもたちに関わっていくと考えていますので、そうした意味で、各学校で行っている校内研究をはじめとした授業改善を改めて進めていかなければならないということで、第2の課題と考えております。

3点目ですが、今私どもが注目しているのは、中学校区で共通の方針のもとで子どもたちを育成していくことが重要ではないかと考えております。したがって平成27年度、そうした意味で小中連携教育を進めることで新たな一步を踏み出していく施策につなげていっているところがございますけれども、小学校、中学校が手を携えて同じ地域に住む子どもたちを成長させていくという体制づくりをしていきたいということが第3の課題ということで挙げられると思います。以上3点でございます。

もう1点、小中連携ですけれども、子どもたちが共に学び、共に活動するという機会がこれまでなかったわけではないですけれども、そうしたところをどう増やしていくのかというところが必要だと思います。当然そのためには小中の教員同士が共同して子どもたちの教育に当たるということが不可欠ですので、これまでイベント的に一緒に活動するという事は各学校十分に行っていますので、それを今度は授業の中で踏み込んでいけるようにしていくことが大切だと思います。そのためにも小学校の教員、中学校の教員の意識をともに子どもたちを育てていくという形へ転換させる必要があると思っていますので、そうしたところを今後、力を入れてまいりたいと考えております。

○**福田委員長** 市の課題を含めて小中連携まで説明いただきました。田中委員、いかがですか。

○**田中委員** 丁寧なご説明をいただき、理解できました。その上で私から何点かお願い申し上げたいと思います。

今、泉澤指導課長からご説明がありましたように、東京ベーシック・ドリルを通しながら

学力の定着、基礎学力の定着を図りたいということは本当によく分かります。その上で見える化ということで、これだけ見える化されて何が課題なのか何をすべきか、その中から見えてきていると思います。

そこで要望として、基礎的な学力、基礎・基本といいますけれども、その定着をしっかりとするために繰り返しの学習をしていただきたいということです。2年生から6年生までで相当基礎学力が定着してはいますけれども、なお80%、90%を目指す、その上で繰り返しの学習をしていただければと思います。もちろん各学校ともモジュールを使ったり、あるいは朝の学習で繰り返しをしていると思いますけれど、なお一層、ベーシック・ドリルで診断された実態を見ながら、しっかり把握しながらどう定着させるか、先ほど申し上げた繰り返し学習を引き続きご努力いただきたいと思います。

2点目ですが、基礎学力と同時に、今後、当市も含めて全国の課題になりますけれども、学力調査の結果を見ますと、数学的なリテラシー、あるいは理科のリテラシー含めて、今後課題になるのは問題解決的な力、また読解力、関心、意欲というのがかなり重視されるだろうと思います。そういったことを考慮しながらベーシック・ドリルを活かしていただければうれしいと思います。

最後ですけれども、泉澤指導課長からもありましたように、これを各学校に9月に提示して授業改善をされるとおっしゃったのですが、これは今後、1学期だけではなくて学期末にも行うのでしょうか。

○**福田委員長** 泉澤指導課長、いかがですか。

○**泉澤指導課長** 正式には通知しておりませんが、経年で追っていきたいと思っておりますので、一つのチャンスとして今年度末、または来年当初に定着度を測るということは必要だと考えておりますので、今後そういう準備を進めていきたいと思っております。

○**田中委員** その上で要望の3点としては、1学期に行ったベーシック・ドリル、次回行うであろうベーシック・ドリル、それを通しながらポートフォリオ評価、一人ひとりの児童の評価をきちっと積み重ねていただいて、何がどう課題なのか、そのことをきちんと把握して児童一人ひとりに返してほしいです。その積み重ねが大事だと思います。ポートフォリオ評価をしながら、子どもの基礎学力の定着も一緒に果たしていただきたいと思っておりますので、ご苦労をおかけしますがよろしくお願いいたします。

○**福田委員長** 是非、児童一人ひとりの結果の累積をお願いして、その中で子どもたちの基礎学力の定着を図っていく必要もあろうかと思っておりますので、お願い申し上げます。

ほか、ございますか。伊藤委員。

○**伊藤委員** 田中委員、指導課長からのお話を伺って、全く同じ問題でも構いませんので、例えば今から半年後、同じ問題を行ってみて、少しでも理解が上がっているのか等を把握するのはどうでしょうか。そういうようなことを考えていただいて、特に立川の場合ですと一つの問題として下の方の山の底上げというのは大事かと思っております。その辺をご検討いただければというお願いです。

○福田委員長 平山委員いかがですか。

○平山委員 私も田中委員と同じ意見です。せっかくここで分析ができて、これから各学校で改善に向けて取組が始まると思いますので、再評価をきちんとしていただきたいということと、他市の小学校のホームページを見たところ、ベーシック・ドリルの問題をホームページでアップして家庭学習に役立ててくださいというような取組をした学校がありましたので、是非その辺は家庭学習のほうに連携させて何か取組ができたらと思います。

○福田委員長 家庭学習にも役立ててほしいということです。

教育長、ありますか。

○小町教育長 ご指摘いただいた点に対しては改めまして校長会に伝えていきたいと思っています。学力向上というのは本市の最大の課題でございますので、このような診断シートによってつまずく場所が明確になりましたので、そういったところを授業内容に活かしていければと考えております。一つの材料として活用していきたいと思っています。

○福田委員長 このたびの調査結果から見えてきた本市の児童の課題、またその改善の研究を含めて、中長期的な施策を講ずる必要があると私は考えております。特に各委員からもありましたように、3年生が50%を下回るような正答率が不安です。その中を見ていまして、特に量と測定、図形、数量関係が低いというのが目につきます。

今後、学年進行により単元内容が高度化して難しくなっていく中で若干不安が残りますので、是非、先生方には分かる授業、子どもたちが分からないままずっと終わったのでは困りますので、分かる授業の研究開発と同時に、このデータをもとにして個別支援、補充授業等の適切な改善策を講じていただいて、全ての児童が算数嫌いのないように、基礎・基本的な内容を理解して日々の生活の中で活用できればと考えておりますので、是非、校長会を通じて、また算数部会等でもご指導をお願いしたいと思います。

ほか、ございますか。

〔「ありません」との声あり〕

○福田委員長 それでは、東京ベーシックドリルについての質疑及び報告を終了いたします。

◎報 告

(2) 図書館の臨時休館について

○福田委員長 次に、報告(2) 図書館の臨時休館についての報告でございます。

お手元の資料、図書館の臨時休館についてをご参照願います。

小宮山図書館長、ご説明等お願いいたします。

○小宮山図書館長 本件につきましては、図書館資料の特別整理いわゆる蔵書点検でございます。条例の規定に基づきまして臨時休館をいたしたいという内容でございます。

休館期間につきましては、中央図書館では11月の第3週目の5日間、地区図書館につきましては柴崎図書館を除く7館につきましては、2つのグループに分けて、①のグループにつきましては12月の第1週目の4日間、②のグループにつきましては12月の第3週目の4

日間、蔵書点検のため休館をしたいという内容でございます。なお、柴崎図書館につきましては、先の第一小学校への建設、移転の時期に蔵書点検をあわせて実施済ということでございます。

特別整理（蔵書点検）作業の内容につきましては、3番にお示ししたとおりでございます。

4番目には、昨年ICタグを導入いたしまして新しいシステムに変わりましたので、それにより向上する今回の蔵書点検の作業効果についてお示しいたしました。今までは一冊一冊機械で読み取っていたところですが、今度は棚レベルでまとめて一括して読み取ることができるということで効率性が向上してございます。また、違う書架に間違えて戻されているといったことも今まではチェックできませんでしたが、そういった細かいチェックもできるようになるということで、作業の正確性も向上してくるかと考えております。

それから、地区図書館を今までは一括で休館せざるを得なかったところ、今回、システム導入に伴いまして2つのグループに分けて別々に休館するというところで、全ての地区館が全部休館するというところによる市民の利用上の不便が生じない体制をとることが可能となったところが効果だと考えております。

5番目、周知の方法といたしましては、従来どおり「広報たちかわ」、ホームページ、ツイッター等でご案内をいたします。その中であわせて、現在協定を締結しております昭島市、国立市、武蔵村山市、こちらの図書館も休館期間中は利用できる旨のご案内もあわせて周知を図ってまいりたいと考えております。

説明は以上でございます。

○**福田委員長** ご説明ありがとうございます。図書館の臨時休館についての報告を終了いたします。図書館資料の特別整理及び蔵書点検のため、中央図書館及び地区図書館7館を臨時休館するというご報告でございました。

これより質疑に移ります。ご報告内容を踏まえ、ご質疑をお願いいたします。

〔「ありません」との声あり〕

○**福田委員長** それでは、図書館の臨時休館についての質疑及び報告を終了いたします。

◎報 告

（3）第2次学校教育振興基本計画検討委員会の設置等について

○**福田委員長** 次に報告(3)第2次学校教育振興基本計画検討委員会の設置等についての報告でございます。

お手元の3枚綴りの資料、立川市第2次学校教育振興基本計画検討委員会設置要綱をご参照願います。

栗原教育総務課長、ご説明等お願いいたします。

○**栗原教育総務課長** それでは、本日の資料でございます設置要綱、検討委員会の委員名簿、そして今後の開催日程と検討内容について、この資料に基づき報告いたします。

まず要綱をご覧ください。現在の学校教育振興基本計画につきましては、平成22年度に策

定しまして5ヵ年の計画期間、すなわち今年度、平成26年度は計画の最終年度となります。そのため、来年度の平成27年度を初年度とする第2次計画を検討するための委員会を今年度設置し、計画について検討していきたいと考えております。

第8条、庶務でございますが、今回の委員会の庶務につきましては、教育委員会の教育総務課及び指導課によって処理をいたします。

裏面をご覧ください。別表1（第3条関係）は組織の構成でございますが、(1)の学識経験者以降、このような構成となっております。

別表第2（第7条関係）につきましては、この検討委員会の幹事となりますが、統括指導主事を含みます学校教育関係の管理職が幹事をいたします。

続きまして委員名簿でございます。先ほどの要綱に従いまして、それぞれ学識経験者が2名、東京学芸大学教職大学院の特任教授であります近藤先生、帝京大学教育学部初等教育学科の准教授でいらっしゃいます若林先生の2人に学識として委員をお願いしています。それと小学校PTA連合会から2名、中学校PTA連合会から2名推薦をいただいて委員としております。そして青少年健全育成地区委員長連絡会と子ども会連合会から各1名、公募市民が4名、市立小学校校長会から第一小学校の對島校長、市立中学校校長会からは立川第五中学校の小沼校長になっていただいています。

幹事は先ほど申し上げたとおりでございます。

もう1枚おめくりください。今後の開催日程と検討内容についてでございます。こちらの表には開催回、開催日、検討内容を記入してございます。

第1回につきましては9月26日、明日となります。検討内容につきましては、これは初回となりますので辞令交付、それと委員会設置の目的等の説明、今後の進め方、また、国、東京都がそれぞれ教育振興基本計画に該当するものを策定しておりますのでその説明、それと教育委員会でもお示した現行計画の進捗状況についても明日示したいと思います。明日につきましては、第2次計画（案）の施策体系までをお示したいと考えております。

2回目以降は、10月につきましてはそれぞれ計画体系の中の第1章から第3章、そして第4章の基本方針1、11月につきましては第4章の基本方針2、第4回12月につきましては、第4章の基本方針3、5回目、年をまたぎまして平成27年1月にはまとめとして計画内容全体についてで検討していきたいと考えております。

なお、教育委員会につきましては、この検討委員会終了後、適宜こちらでの検討内容等を報告したいと考えています。

報告は以上でございます。

○**福田委員長** ご報告ありがとうございました。次年度以降、平成27年度を初年度とする新たな学校教育振興施策に関する基本計画の策定のために設置する検討委員会の要綱等の説明でございました。

これより質疑に移ります。ご報告内容を踏まえ、ご質疑をお願いいたします。

はい、田中委員。

○田中委員 私から要望を申し上げたいと思います。立川市第2次学校教育振興基本計画検討委員会が9月26日に行われるわけですが、この関係の先生方はそれぞれお力のある方々ですので、要望を3点お願いしたいと思います。

1つは、平成22年12月に策定いたしました立川市学校教育振興基本計画を見まして、全体で基本方針が3つアクションプランとして掲げてあります。その上で基本施策が19項目、この大半はこれまで継続してきたものが多いです。いずれも重要な基本施策でありますので、もし継続するのであれば何をどう質を向上させるのか、その辺りを議論していただきたいと思います。これは当然、当市の課題でもあるわけですから、基本施策19項目の中でも相当数が継続されると思いますので、ただ継続ということではなくて、何をどう継続するのか、その質を高めていただきたいというのが1つです。

2つ目に、第3次東京都教育ビジョン、平成25年4月に概要版を出したと思います。これをもろろん先生方しっかり読まれていますし研究されていると思います。ただ研究しながらこれをスライドさせながらどうするかではなくて、立川市の実態を考えてほしいです。ややもすると東京都教育庁がこうだから立川はこうでなくてはいけない、それはそれなりに当市の実態があるわけですから、それをきちんと把握し分析しながら立川市第2次学校教育振興基本計画の検討にあたって議論していただきたい。

最後ですけれども、教育というのは常に時代、社会の変化の中で求められる21世紀の児童生徒像があると思います。そういうことをしっかり見据えながら立川市教育委員会の教育目標である国際社会に貢献し活躍する人づくり、そういう面で国際化の中で当市の児童生徒の未来像を見据えながら検討をお願いしたいと思います。

私から以上3点です。

○福田委員長 3点のご要望でございます。ご要望等も踏まえまして今後の内容検討についてよろしくお申し上げます。

ほか、ございますか。

○栗原教育総務課長 今、田中委員から3つの要望をいただきました。

まず1点目でございますが、現在の計画につきましては、かなりの部分は継続する形です。もちろん、どのように継続していくかということを考えていきたいと思っているところでございます。体系的には現在のものを引き継ぐものもありますし、新たな計画ですので変更する部分も多分にあると思いますので、その辺については考え方を教育委員会にお示ししていきたいと思っています。

2番の東京都のビジョン、これを単にスライドすることなく立川市の実態をということで、まさしくそのような形で東京都や国の計画を踏まえるとともに、本市の実態を十分に把握した上でそれを反映していきたいと考えています。

3点目でございます。社会の変化ということ、21世紀の児童生徒像を踏まえた国際社会に貢献し活躍する人づくり、未来像を考えた上で、5年間の計画ですのでそれらをしっかり見据えた上での計画にしていきたいと思います。

○**福田委員長** 田中委員、お願いします。

○**田中委員** 栗原教育総務課長から丁寧な説明をいただいてありがとうございました。継続するもの、拡充するもの、それをしっかり見極めながら、当市の子どもたちが学んで良かったとそう言えるように、よろしくお願いします。

○**福田委員長** 小町教育長、お願いします。

○**小町教育長** 基本構想、今まで15年間だったんですけど、今回は10年間にして、27年から10年間ということで、上は基本構想が最上位にあり、その下に5年間分の基本計画をもちまして、その中に分野別の、もちろん教育も入っていますけれども個別計画があります。それを受けてこの学校教育振興基本計画があるという位置付けです。大元の基本構想は今、「緑豊かな健康都市立川」というビジョンに基づいてできあがっておりますけれども、これを「やすらぎとにぎわいのある交流都市立川」ということで大きくビジョンを変更する予定でございます。それを踏まえたと、それに付随する基本計画、分野別計画、個別計画、それぞれ連動してビジョンに沿った施策を展開するという形になろうかというのは1点でございます。

それから、いよいよ立川市も人口減少に入っておりますので、今までは人口が伸びる前提の中で、人口が伸びれば税収も伸びるということの前提の中で財政計画、行政計画をつくってまいりましたけれども、これから10年見越して確実に人口が減ってくると予想されます。特に少子高齢化でありまして、高齢者人口は増えて子どもの人口は減っていくということで明確に人口推計を出しています。そういった人口推計のもとでの初めての基本構想、基本計画になってくるわけでございますので、それがまず大前提として押さえなければいけなくて、特に学校教育に関しましては子どもの数が関係してまいりますので、そういったところを目配りしながら振興計画をつくっていききたいというのが2点目でございます。

3点目が今申し上げたとおり、立川は都市化が進みまして、コミュニティの希薄化というのがありまして、犯罪の発生件数だとか、いざ災害時に防災組織が果たして機能できるかどうかということで、象徴的な指数としては自治会の組織率が50%を切ると、なかなか止まらないという問題があります。市長がおっしゃっていますけれども、1年間で1万名が入れ替わる流動性の激しい都市でもあります。都市化がどんどん進めばそういった問題がこれから出てきます。そういった中で学校の役割として担うことは何なのか。また、学校が学校教育の場だけでなく、もちろん防災のときは防災拠点、それ以外にコミュニティの役割もあります。また、地域文化の拠点でもある、そのような広い意味で学校のコミュニティの中での役割ということも基本計画の中では議論されていますので、そういった大きい政策の議論を受けながら学校教育振興基本計画をつくってまいりたいと考えています。

○**福田委員長** 今、教育長からベースになるようなご提案がございましたけれども、ほかに何かございますか。

〔「ありません」との声あり〕

○**福田委員長** ないようでございます。第2次学校教育振興基本計画検討委員会の設置等についての質疑及び報告を終了します。

◎その他

○福田委員長 次に、その他に入ります。

○小町教育長 大町市への訪問の件ですけれども、夏の教育委員会定例会のときに子どもたちを派遣するという話をいたしました。10月10日の午前中に式典がございまして、式典に市長と私が招待という形で伺わせていただくことになりまして、10日の朝ということでございますので、前日に行くということで、市長ともども前日に入る予定です。私は朝一番のあずさに乗車し、午後の時間で大町の小学校の現場を大町の教育長の案内で視察させていただくことが決まりましたので、これは報告していなかったと思いますので、これに関しましては追加でご報告させていただければと思います。

訪問する学校は大町の北小学校で、ちょうど4時間目と5時間目に間に合いそうなので、1学年1クラスで小規模校ですけれども見学いたします。学力に関しましては全国平均を上回っているということで、かなり学力に関しては意識して小規模校ゆえに特色を出した教育が展開されているということでございます。本市の学力向上にも少しヒントが得られるかと思えます。せっかく大町に行きますのでそのような予定を組ませていただいて、大町の教育長にご理解いただいて予定を組んでいただきました。

翌日の11日は10時から式典が始まりまして、立川市の子どもたち、一中、二中それぞれ21名、22名、それぞれの校長が引率して来るわけでございますけれども、到着するのはお昼ごろになりますので、出番としては午後の時間帯になります。一中、二中それぞれ演奏した後合同演奏で、全部で45分というスケジュールの中で、立川市の子どもたちに式典のアトラクションの中で演奏させていただけるということでございます。

子どもたちにとっても貴重な体験になると思えますし、以前にも小学校の作品を120点ばかり大町の子どもの作品と一緒に展示していただいておりますので、そういった意味で大町市は姉妹市でございますので、教育におきましてこれをきっかけに交流を深められればと思っております。

○福田委員長 ありがとうございます。10月10日から11日にかけての姉妹都市大町市での式典参加と、教育長の学校訪問及び生徒の式典参加でございます。

ほか、ございますか。田中委員。

○田中委員 今、教育長から大町での話があったので、ちょうど私も東京都市教育委員会連合会管外視察研修がありますので、しっかり研修してまいりますけれども、教育長にお願いがありまして、厚かましいお願いなのですが、今お聞きしたところだと大町市立北小学校、学級の規模が小さくないとおっしゃって、なおかつ学力については力を入れて全国平均の上であるということです。是非その辺りの授業の様子等の記録を当市の教育財産にしたいと思っておりますけれども、ご検討ください。よろしく申し上げます。

○小町教育長 また報告させていただきます。

○福田委員長 ご要望でございますので、お願いいたします。

ほか、ございますか。

〔「ありません」との声あり〕

○**福田委員長** ないようでございますので、冒頭でご承認いただきました1請願に戻り、請願書について、非公開で協議いたします。

暫時休憩いたします。

午後 2時22分休憩

午後 2時23分再開

○**福田委員長** それでは、休憩前に引き続き会議を再開いたします。

◎閉会の辞

○福田委員長 次回の日程確認を行います。次回、平成 26 年第 19 回立川市教育委員会定例会を平成 26 年 10 月 9 日木曜日、午後 1 時半より、210 会議室にて開催いたします。

以上で、平成 26 年第 18 回立川市教育委員会定例会を閉会いたします。

午後 2 時 4 8 分

署名委員

.....

委員長